

# 大島七太郎 年譜

天保 11	1839	1月1日 大島七太郎、文蔵の長男として福山藩東櫓の木端に生まれる。 幼名徳太郎、晩年景翁と号す。 若年より、羽田紋右工門、惣右工門につき謡曲修業をする。
慶応 3	1867	組抜勘定人格となる。石州征伐に出陣。
明治元	1868	奥州征伐に出陣。 福山誠之館にて萩野流古田流銃隊の世話取となる。後肝煎となる。
明治 2 廃藩後	1869	12月28日 東町船入の甲田千代野と結婚。 小田縣警備邏を勤む。 後、官を辞し、農業を営みながら能楽を子弟に教授。
明治 4	1871	1月17日 長男寿太郎生まれる。
明治 6	1873	2月20日 長女トヨノ生まれる。
明治 10	1877	5月18日 次女コツネ生まれる。
明治 14	1881	恩師羽田惣右工門没後、門弟の協力を得て能装束を譲り受ける。
明治 15	1882	3月26日 次男圭一郎生まれる。
明治 27	1894	喜多流家元千代造(後 14世喜多六平太) 及び同流地頭沼田含翠に就いて研鑽する。 門弟の所在地は、福山・鞆・水呑・金江・竹原・忠海・府中・広谷・戸手・近田・宮内・大橋・中條・高屋・井原・笠岡・石州・濱田等約 500 人。
明治 33	1900	春 家元を招聘し、2日間、還暦祝賀能を催す。 喜多六平太「船弁慶」「邯鄲」、大島七太郎独吟「安宅」勸進帳、大島寿太郎「猩々乱」。
明治 34	1901	10月24日、妻千代野没。享年 52 才。
明治 36	1903	12月21日、家元の舞台修繕費として金壱百七拾壱円五拾銭、寄付の功に依り、翌年「卒都婆小町」の能を免許す。
明治 42	1909	春 家元を招き、2日間、古稀祝賀能を催す。 七太郎「翁」「景清」、喜多六平太「葵上」「望月」、金子亀五郎「融」、寿太郎「富士太鼓」狂乱楽。 3日目に、鞆沼名前神社能舞台にて奉納能を催し、絵馬堂に額を掲げる。 七太郎「翁」、寿太郎「高砂」、六平太「羽衣」、亀五郎「鞍馬天狗」白頭、粟谷益二郎 祝言「岩船」 七太郎出勤能は、鞆沼名前神社の「翁」を以て、最終。 11月、戦捷記念植樹ノ碑を鞆沼名前神社隨神門の北方の小高い所に建立と同時に、謡、仕舞を奉納し、額を絵馬堂に掲げる。その外、各地の神社で奉納し、奉納記念の額を掲げる。備後一之宮、天王、安芸竹原磯宮、大崎島宇都神社、備中大谷金神等である。
明治 44	1911	10月2日没。享年 72 才。